

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	個別療育センター 結いの虹 住之江教室		
○保護者評価実施期間	2026年1月27日		～ 2026年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2026年 2月 6日		～ 2026年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所で行っている療育の内容や方法を家庭でも実践できるように、具体的なアドバイスや支援方法を提案します。 ・セッション後のフィードバックの時間を確保し話しやすい環境を整えています。 	お子さんの発達段階にどのようにアプローチしたらいいかわかるように、定期的にふれあいペアレントプログラムの勉強会を実施します。
2	生活空間は本人にわかりやすい構造化され環境になっている	<ul style="list-style-type: none"> ・活動エリア(遊び・学習・休憩など)を視覚的にわかるように区分することで、子どもたちがどの場所で何をすべきかを理解しやすくしています。 ・個別または全体用のタイムスケジュールを掲示し、子どもたちが次に何をするのか予測できるようにします。 	生活空間内での移動のしやすさや、混乱や混雑が避けられる配置を定期的に見直す。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	セッション時間が同じ保護者同士の交流の場はあるが、固定化しやすく、情報共有が十分でない。就労等により参加が難しい家庭への配慮も課題である。	少人数交流など多様な参加形態を取り入れ、参加しやすい環境を整える。継続的な情報発信により、保護者同士のつながりを広げていく。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がない	個別療育の特性上1時間弱の活動時間内での取り入れることが困難。	外部交流は直接実施に限らず、合同制作物の展示共有や動画の活用など間接的な交流から段階的に取り入れる。
3			